

(4)精神疾患患者の地域移行・地域生活支援の
推進や適切な向精神薬の使用の推進等を
含む精神医療の実施状況調査
報告書(案)＜結果概要＞

調査の概要①

1 調査の目的

- 平成28年度診療報酬改定では、長期入院患者の退院と病床数の適正化に取り組む精神病棟の評価や、長期かつ頻回の精神科デイ・ケア等の適正化等、精神疾患患者の地域移行や生活支援に着目した対応が行われた。また、向精神薬の多剤・大量処方が行われている患者に対する評価の見直しが行われた。
- 本調査では、これらの診療報酬改定の内容を踏まえ、精神病棟の患者の状況や地域移行の状況、精神科デイ・ケア等における地域生活支援の実施状況、向精神薬の処方の実態等を把握し、診療報酬改定の結果を検証する。

<調査のねらい>

- ・精神病棟の患者の状況や退院支援の実施状況等の把握
- ・精神科デイ・ケア等における地域生活支援の実施状況等の把握
- ・向精神薬の多剤・大量処方の適正化の状況等の把握　／等

調査の概要②

2 調査の対象及び調査方法

(1) 病院調査(1,000施設程度)

- ① 地域移行機能強化病棟入院料を算定する病院(悉皆、17施設)
- ② 精神科重症患者早期集中支援管理料の届出を行っている病院(悉皆、16施設)
- ③ 精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料を算定する病院の中から無作為抽出した病院

(2) 診療所調査(500施設程度)

- ① 精神科重症患者早期集中支援管理料の届出を行っている診療所(悉皆、5施設)
- ② 精神科デイ・ケア等の届出を行っている診療所の中から無作為抽出した診療所

(3) 入院患者票((1)の病院1施設につき最大4名)

- ① 地域移行機能強化病棟入院料算定病棟に入院している患者2名(入院期間が5年以上の患者1名、5年未満の患者1名)
- ② 施設の精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料算定病棟に長期にわたり入院している患者各1名

(4) 精神科デイ・ケア等患者票

精神科デイ・ケア等を3年超継続して実施している患者と1年超3年未満継続して実施している患者各1名

- (1)(2)については、自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- (3)については、上記(1)の施設に対し、平成28年10月1日現在、地域移行機能強化病棟入院料、精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料を算定している病棟に入院している患者の状況等を尋ねる「入院患者票」を配布した。
- (4)については、上記(1)(2)の施設に対し、平成28年10月1日現在、1年超精神科デイ・ケア等を利用している患者の状況や精神科デイ・ケアや他のサービスの利用状況等を尋ねる「精神科デイ・ケア等患者票」を配布した。
- 回答者は、施設調査については管理者・開設者及びその代理者、患者調査については、対象患者を担当する看護師または精神保健福祉士等とした。
- 調査実施時期は平成28年10月20日～平成28年12月26日。

調査の概要③

3 回収の状況

- 病院調査の有効回答数は443施設、有効回答率は44.3%であった。
- 診療所調査の有効回答数は295施設、有効回答率は59.0%であった。

調査対象	施設数	有効回答数	有効回答率
病院調査	1,000	443	44.3%
診療所調査	500	295	59.0%
入院患者調査	—	1,207	—
精神科デイ・ケア等 患者調査	—	1,089	—

医療機関調査の結果①

＜平均在院日数＞（報告書p15）

1施設あたりの平均在院日数をみると、精神病床全体では平成27年9月が平均374.1日で平成28年9月が平均354.0日と短くなっていた。

届出別にみると、地域移行機能強化病棟入院料、精神病棟入院基本料15対1、認知症治療病棟入院料のある施設においては増加がみられたが、精神療養病棟入院料のある施設では減少がみられた。

図表 14 平均在院日数

（単位：日）

	平成27年9月				平成28年9月			
	施設数	平均値	標準差	中央値	施設数	平均値	標準差	中央値
精神病床全体	392	374.1	412.2	276.5	395	354.0	364.6	266.0
地域移行機能強化病棟入院料	—	—	—	—	7	706.5	651.2	433.0
精神病棟入院基本料15対1	274	389.7	362.2	281.6	280	400.3	624.3	271.8
精神療養病棟入院料	203	1,131.4	1,238.4	698.0	204	1,111.0	1,477.3	707.1
認知症治療病棟入院料	106	462.0	409.7	368.0	109	501.5	494.1	342.0

（注）各病棟のある施設で、記入のあった施設を集計対象とした。

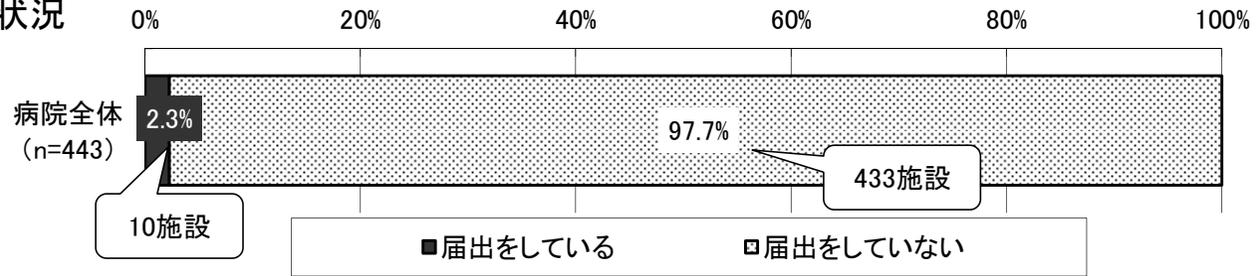
医療機関調査の結果②

＜地域移行機能強化病棟入院料の届出状況＞（報告書p22,23）

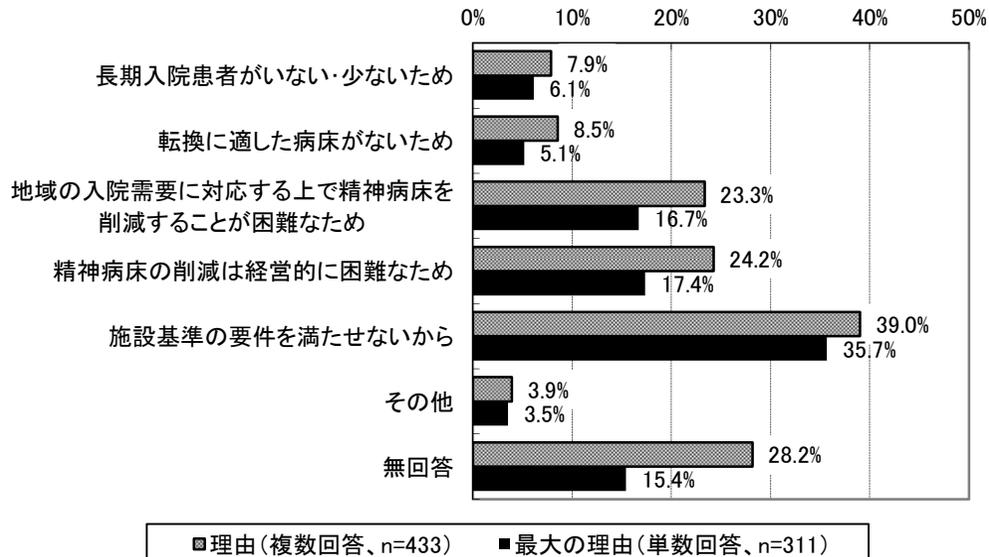
地域移行機能強化病棟入院料の届出をしている病院は2.3%（10施設）であった。

届出をしていない理由は「施設基準の要件を満たせないから」が最も多く、その満たせない要件は「病棟配置の専従の常勤精神保健福祉士の確保」が最も多かった。

図表 24 地域移行機能強化病棟入院料の届出状況

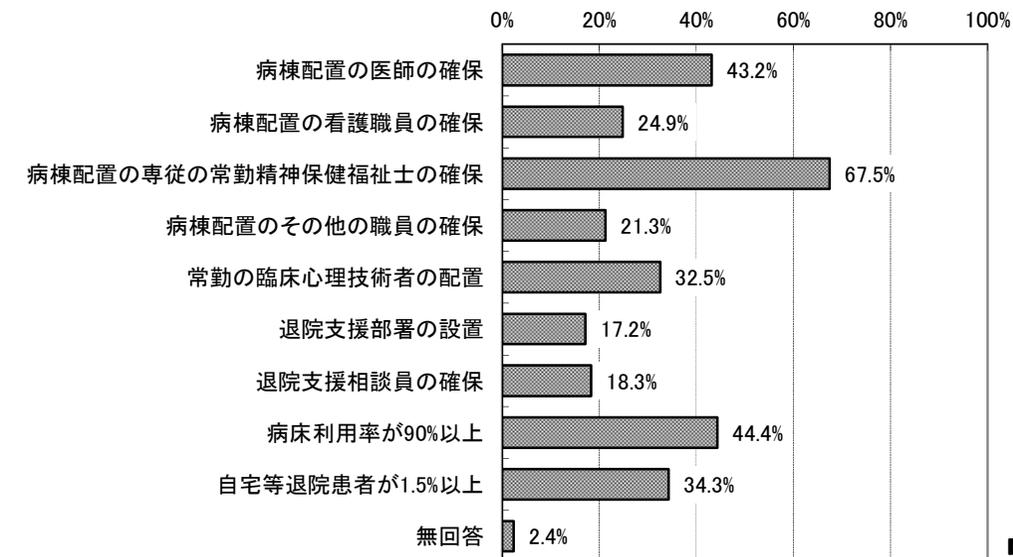


図表 25 地域移行機能強化病棟入院料の届出をしていない理由（届出をしていない施設）



図表 26 満たせない施設基準の要件

（「施設基準の要件を満たせないから」を回答した施設、複数回答、n=169）



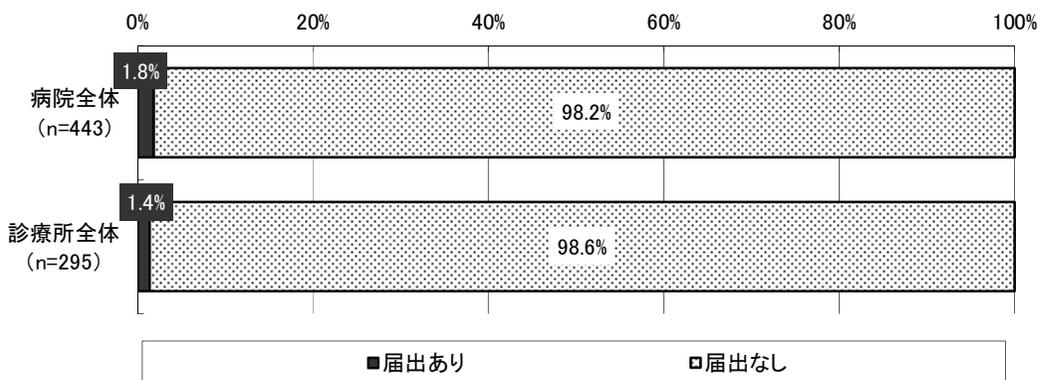
医療機関調査の結果③

＜精神科重症患者早期集中支援管理料の届出状況＞（報告書p57,60）

精神科重症患者早期集中支援管理料の届出をしているのは、病院では1.8%（8施設）、診療所では1.4%（4施設）であった。

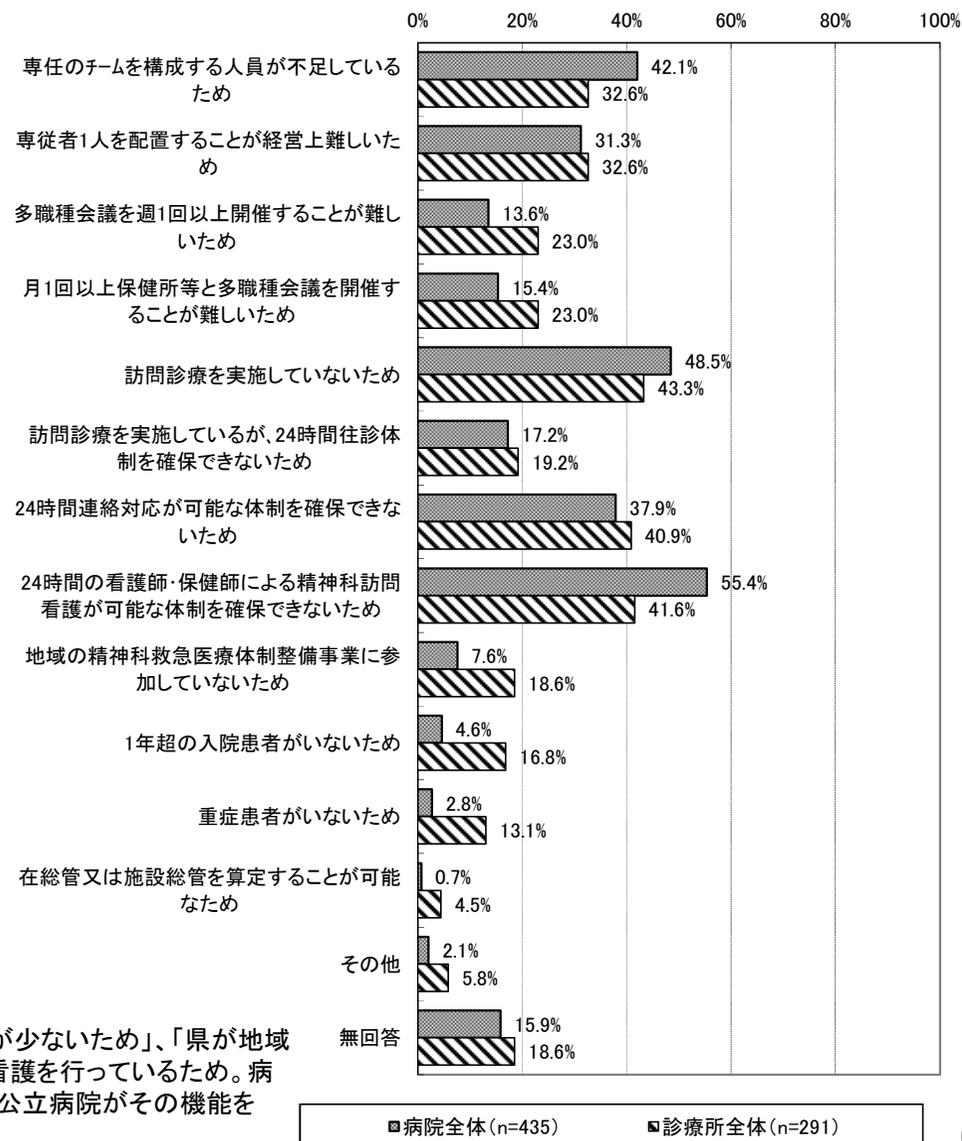
届出をしていない理由として、病院では「24時間の看護師・保健師による精神科訪問看護が可能な体制を確保できないため」が最も多く、診療所では「訪問診療を実施していないため」が最も多かった。

図表 83 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出状況



（注）「その他」の内容として、病院では「体制確保に見合う点数がないため」、「対象となる患者が少ないため」、「県が地域の精神科救急医療体制整備事業を整備しないため」、「重症患者はクリニックで訪問診療・看護を行っているため。病院と役割を分離したため」、「在宅への退院はほぼないため」等が挙げられた。診療所では「公立病院がその機能を任っているため」、「日々の業務で手一杯」、「重症者には対応できない」等が挙げられた。

図表 90 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない理由（複数回答）



入院患者調査の結果①

＜入院の状況等＞（報告書p68）

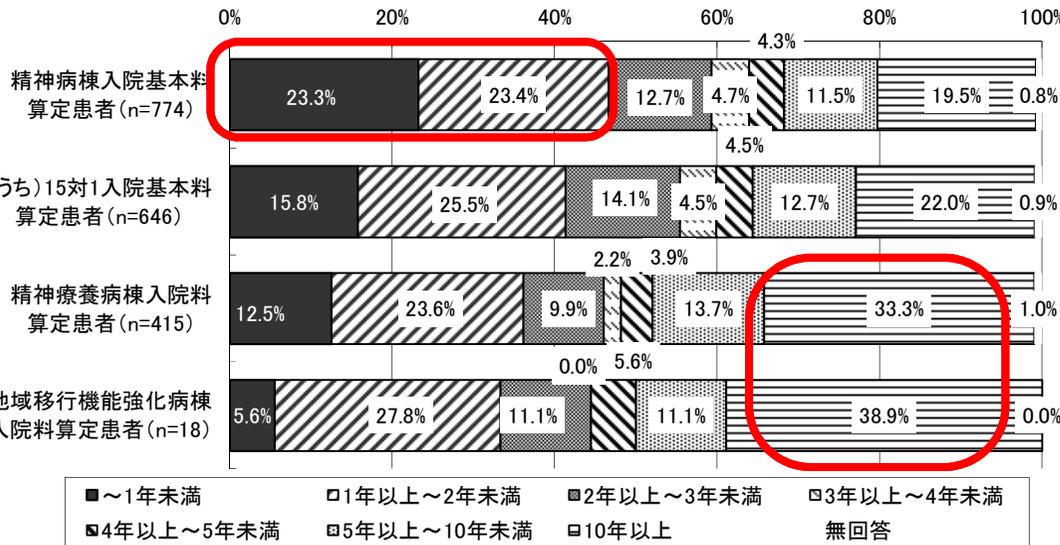
患者票において入院期間^(注)別分布をみると、精神病棟入院基本料算定患者では「1年以上～2年未満」が23.4%で最も多く、次いで「～1年未満」が23.3%であった。また、同算定患者の平均入院期間は平均2,452.1日（約6～7年）で、他の病棟の入院患者よりも短かった。

入院期間が「10年以上」の割合は、精神療養病棟入院料算定患者では33.3%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では38.9%となり、平均入院期間も長かった。

図表 101 入院期間別分布

図表 102 平均入院期間

（単位：日）



	患者数 (人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	768	2,452.1	3,860.9	801.5
(うち)15対1入院基本料	640	2,739.4	4,043.9	904.5
精神療養病棟入院料	411	3,844.6	4,897.3	1,516.0
地域移行機能強化病棟入院料	18	4,630.1	5,498.0	1,905.0

(注)「今回の入院日」から平成28年10月1日までの日数を「入院期間」としている。

入院患者調査の結果②

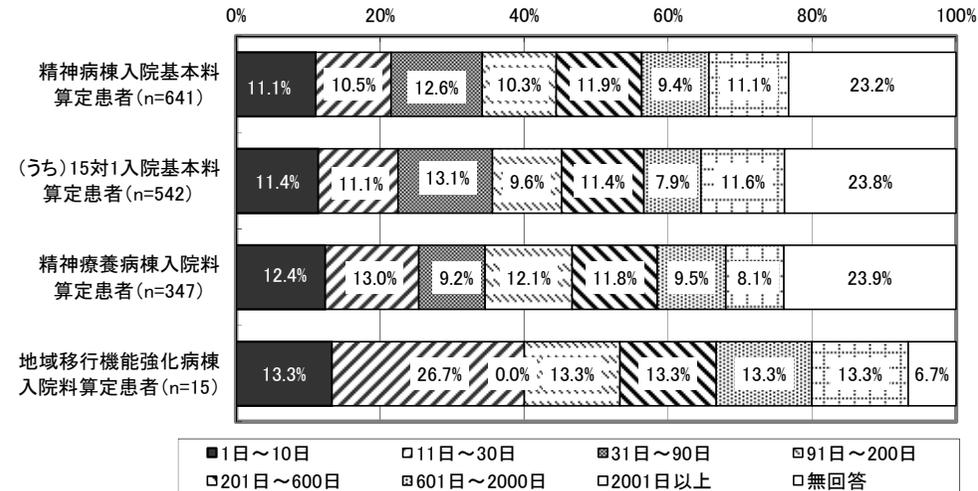
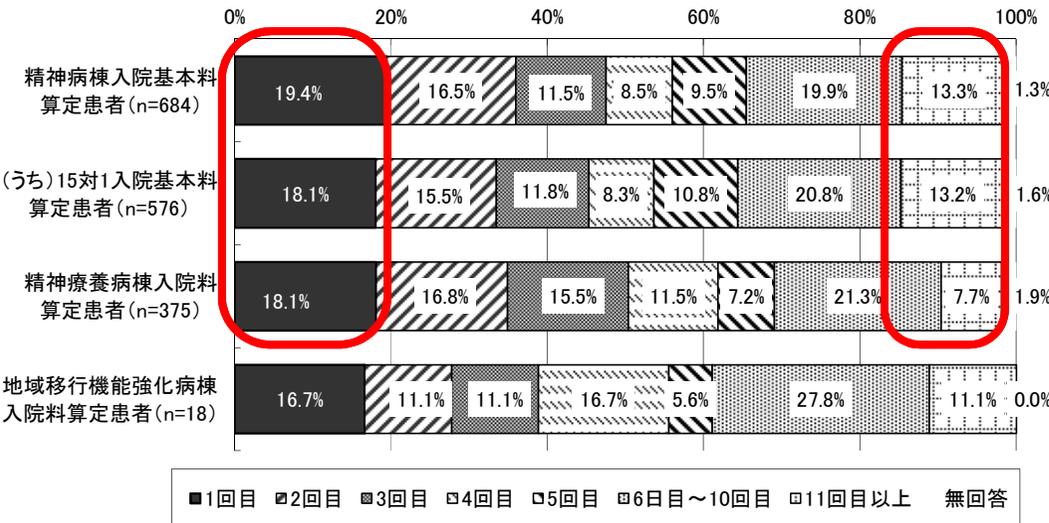
＜精神科・神経科への通算入院回数＞（報告書p71,72）

精神科・神経科への通算入院回数が「1回目」という患者は、精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院患者で約2割を占めた。一方で、「11回目以上」という患者も1割程度みられた。

今回の入院が「2回目」以降の患者について、前回退院日からの今回の入院までの期間は多様であり、特段の偏りは見られなかった。

図表 107 精神科・神経科への通算入院回数(不明者を除く)

図表 109 前回退院日から今回の入院までの期間(2回以上の入院経験者)

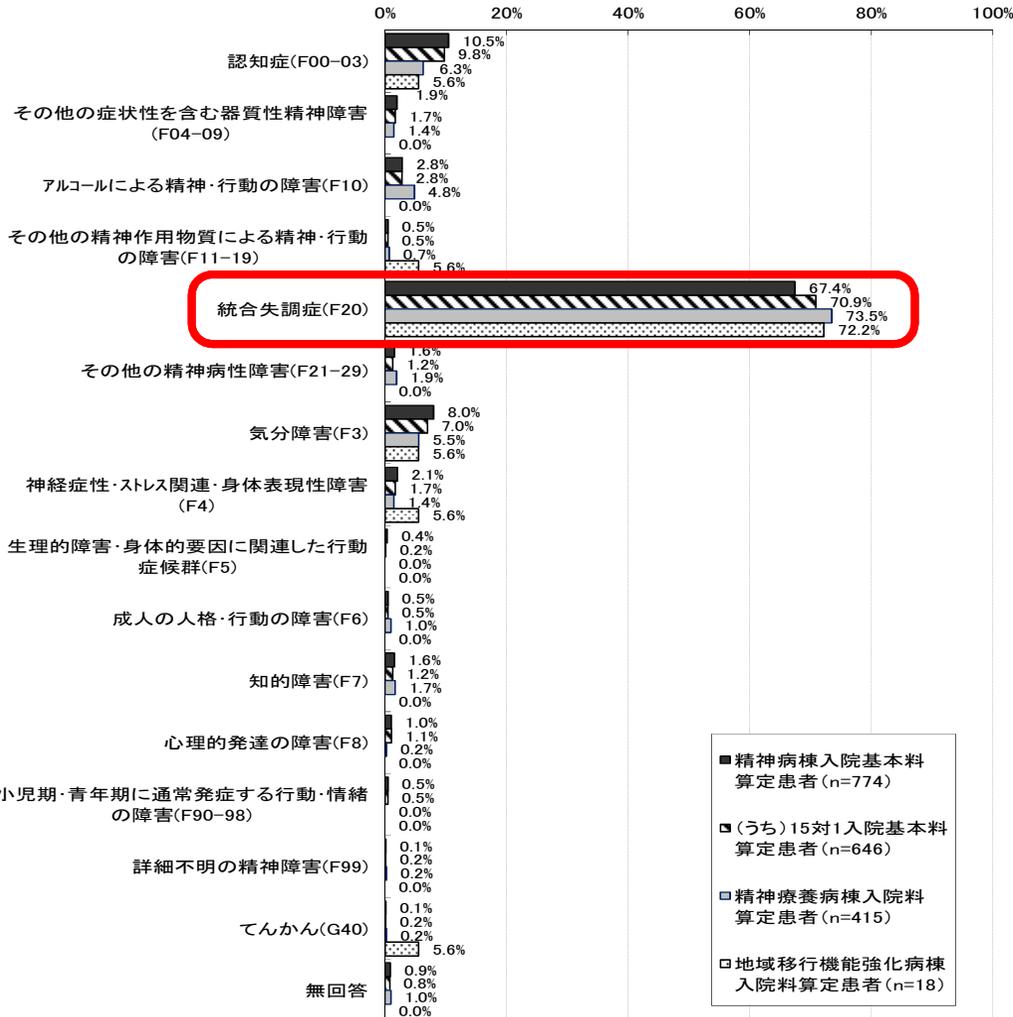


入院患者調査の結果③

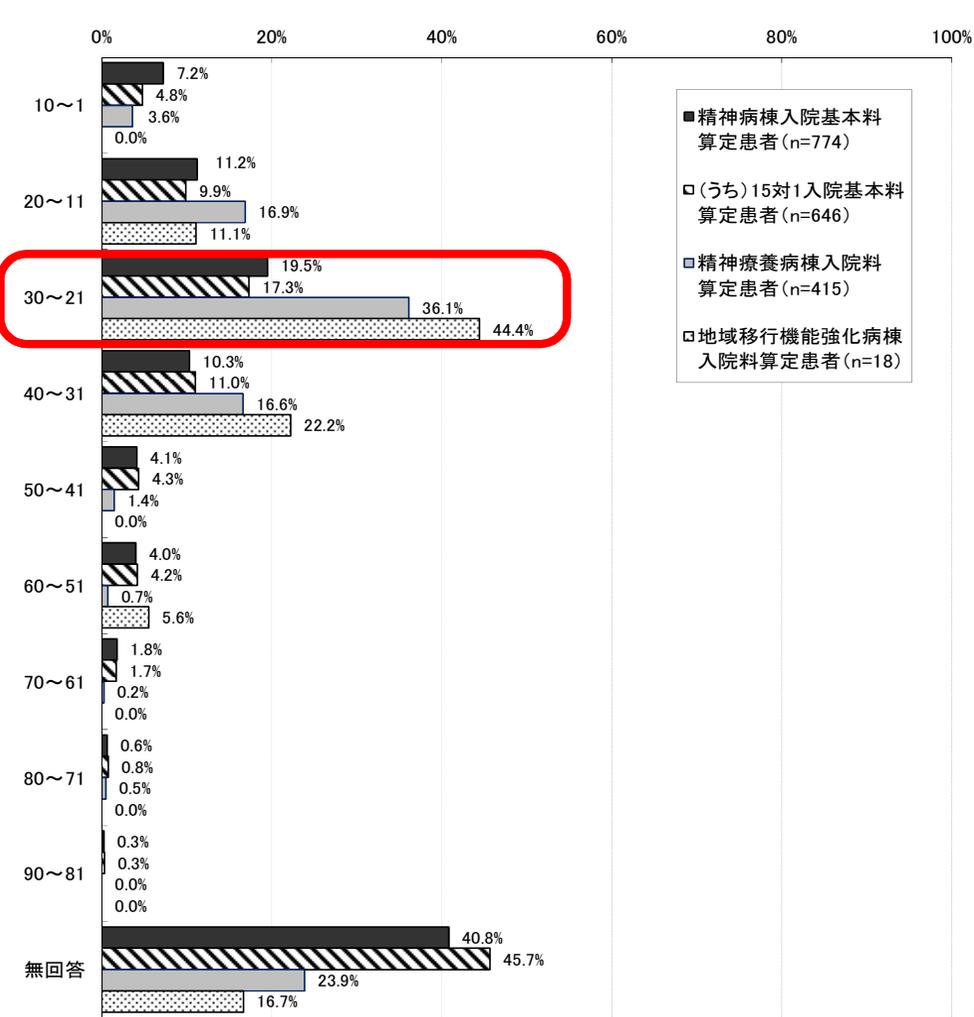
＜入院患者の状態＞（報告書p78,82）

入院患者の主傷病は、「統合失調症」が7割程度と最も多かった。また、患者の入棟時のGAFスコアは「30～21」の割合が最も高かった。

図表 116 主傷病(単数回答)



図表 120 患者のGAFスコア(入棟時、単数回答)



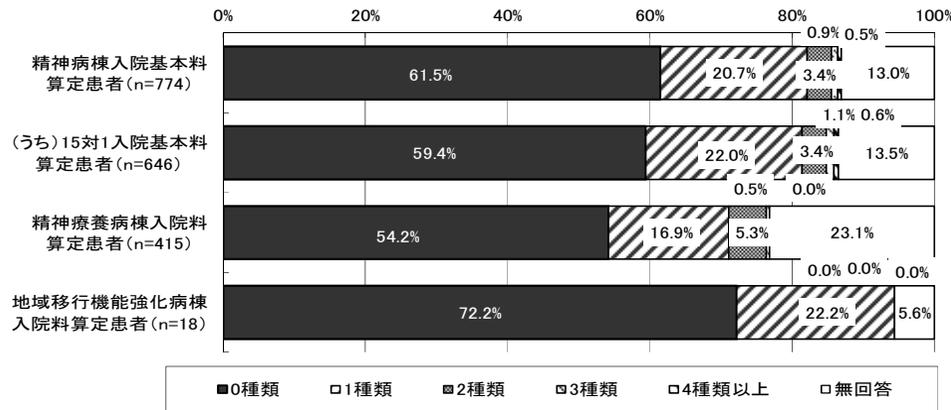
■ 精神病棟入院基本料算定患者 (n=774)
 □ (うち) 15対1入院基本料算定患者 (n=646)
 □ 精神療養病棟入院料算定患者 (n=415)
 □ 地域移行機能強化病棟入院料算定患者 (n=18)

入院患者調査の結果④

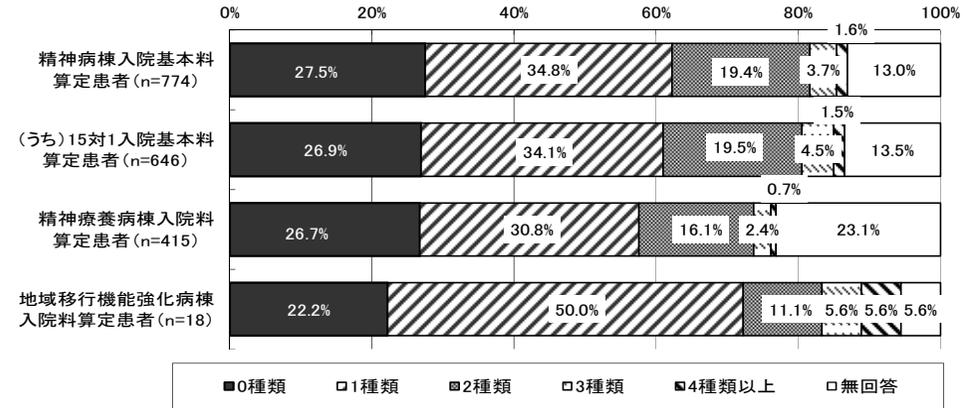
<処方薬数の変化(入院時～現在)①> (報告書p94,95,98)

入院時の抗不安薬の処方薬数については、処方がない患者が最も多く、睡眠薬では「1種類」の処方が最も多かった。入院時に1種類以上の抗不安薬及び睡眠薬が処方されていた患者の現在までの処方数の変化をみると、変化のない患者が最も多かったが、約3割の患者で処方数の減少がみられた。

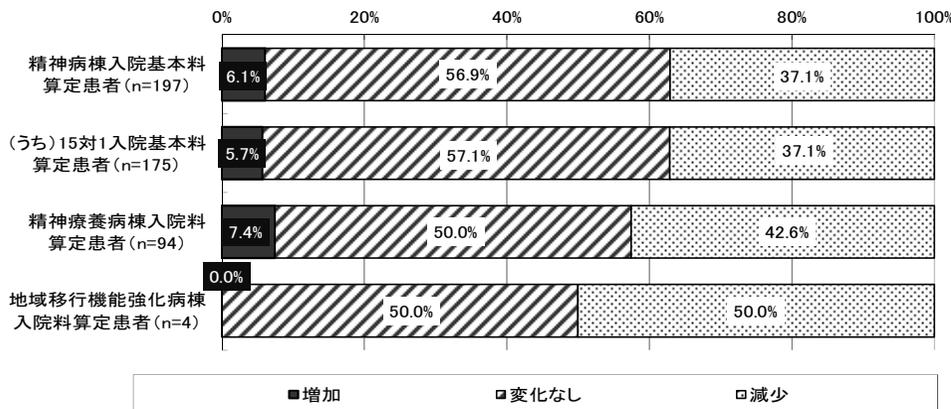
図表 138 抗不安薬の処方薬数(入院時)



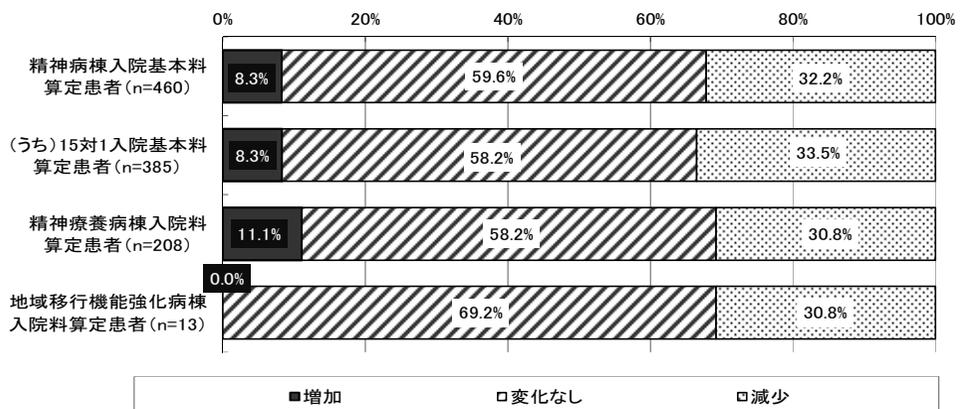
図表 140 睡眠薬の処方薬数(入院時)



図表 146 抗不安薬の処方薬数の変化(入院時～現在)
(入院時に抗不安薬が1種類以上処方されていた患者)



図表 147 睡眠薬の処方薬数の変化(入院時～現在)
(入院時に睡眠薬が1種類以上処方されていた患者)



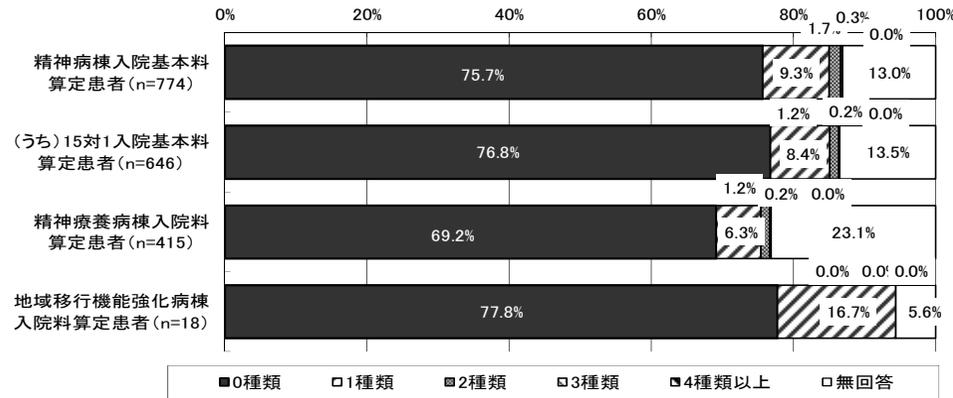
(注)・入院時に処方数が1種類以上であった患者を対象とした。
・処方薬数について、入院時、現在、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

入院患者調査の結果⑤

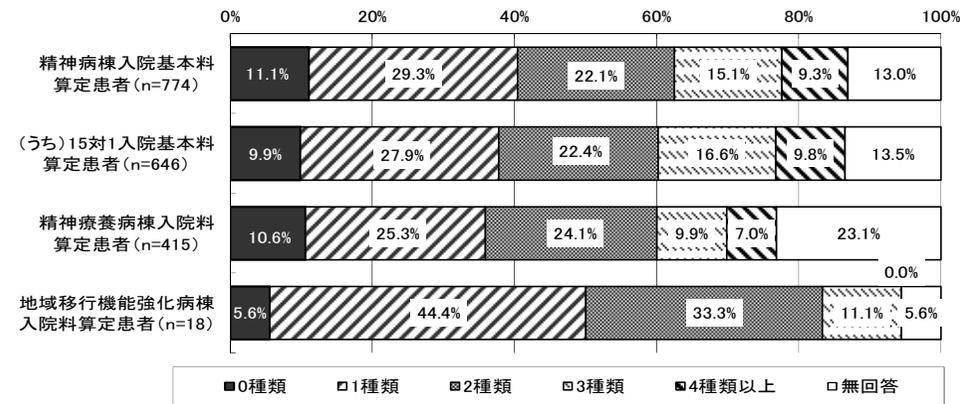
<処方薬数の変化(入院時～現在)②> (報告書p96,97,99)

入院時の抗うつ薬の処方薬数については、処方がない患者が最も多く、抗精神病薬では「1種類」の処方が最も多かった。入院時に1種類以上の抗うつ薬及び抗精神病薬が処方されていた患者の現在までの処方数の変化をみると、変化のない患者が最も多かったが、約3割の患者で処方数の減少がみられた。

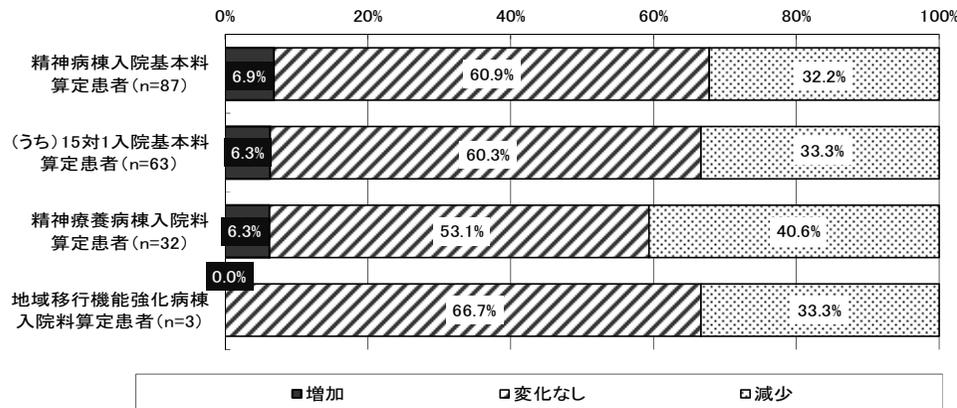
図表 142 抗うつ薬の処方薬数(入院時)



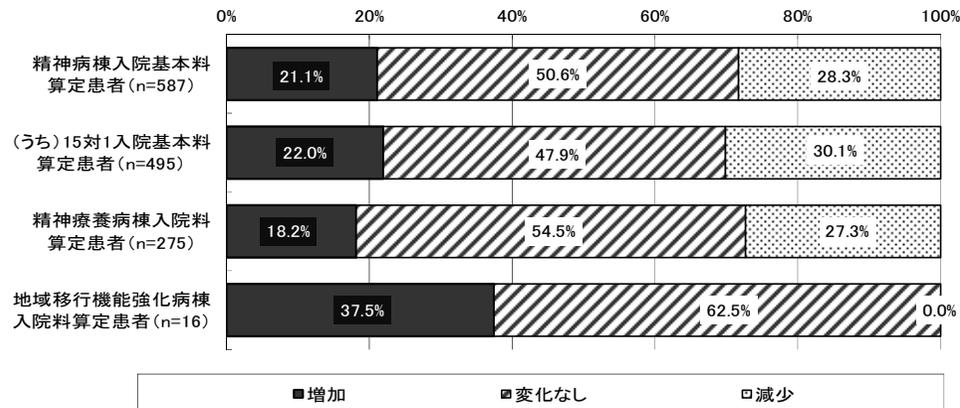
図表 144 抗精神病薬の処方薬数(入院時)



図表 148 抗うつ薬の処方薬数の変化(入院時～現在)
(入院時に抗うつ薬が1種類以上処方されていた患者)



図表 149 抗精神病薬の処方薬数の変化(入院時～現在)
(入院時に抗精神病薬が1種類以上処方されていた患者)



(注)・入院時に処方数が1種類以上であった患者を対象とした。
・処方薬数について、入院時、現在、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

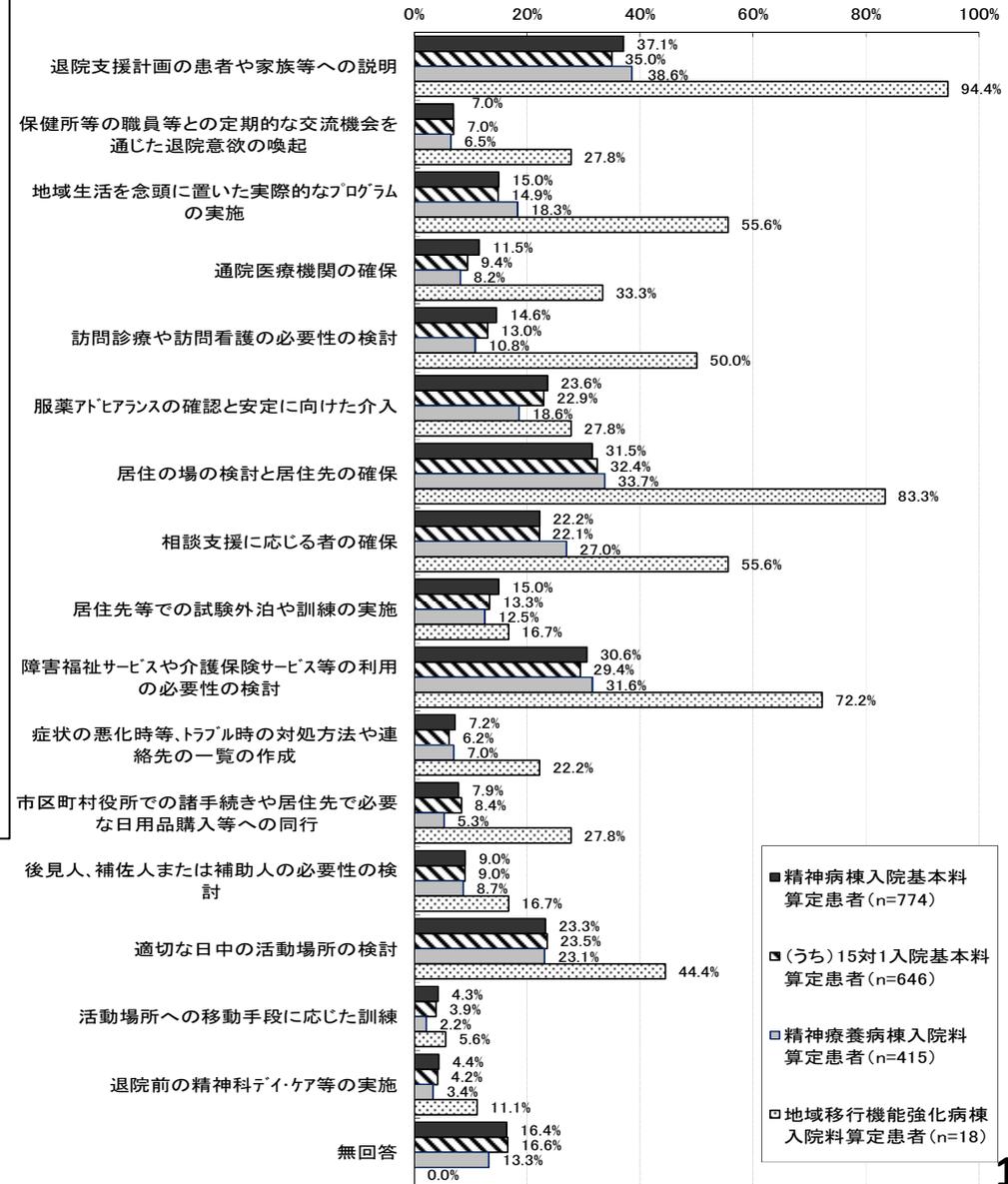
入院患者調査の結果⑥

＜退院に向けて実施したこと＞（報告書p110）

退院に向けて実施したことをみると、精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院料算定患者、地域移行機能強化病棟入院料算定患者のいずれも「退院支援計画の患者や家族等への説明」がそれぞれ37.1%、38.6%、94.4%で最も多く、次いで「居住の場の検討と居住先の確保」(31.5%、33.7%、83.3%)、「障害福祉サービスや介護保険サービス等の利用の必要性の検討」(30.6%、31.6%、72.2%)であった。

地域移行機能強化病棟入院料算定患者では他の病棟入院患者と比較して多様な取組の実施率が高かった。

図表 163 退院に向けて実施したこと(複数回答)



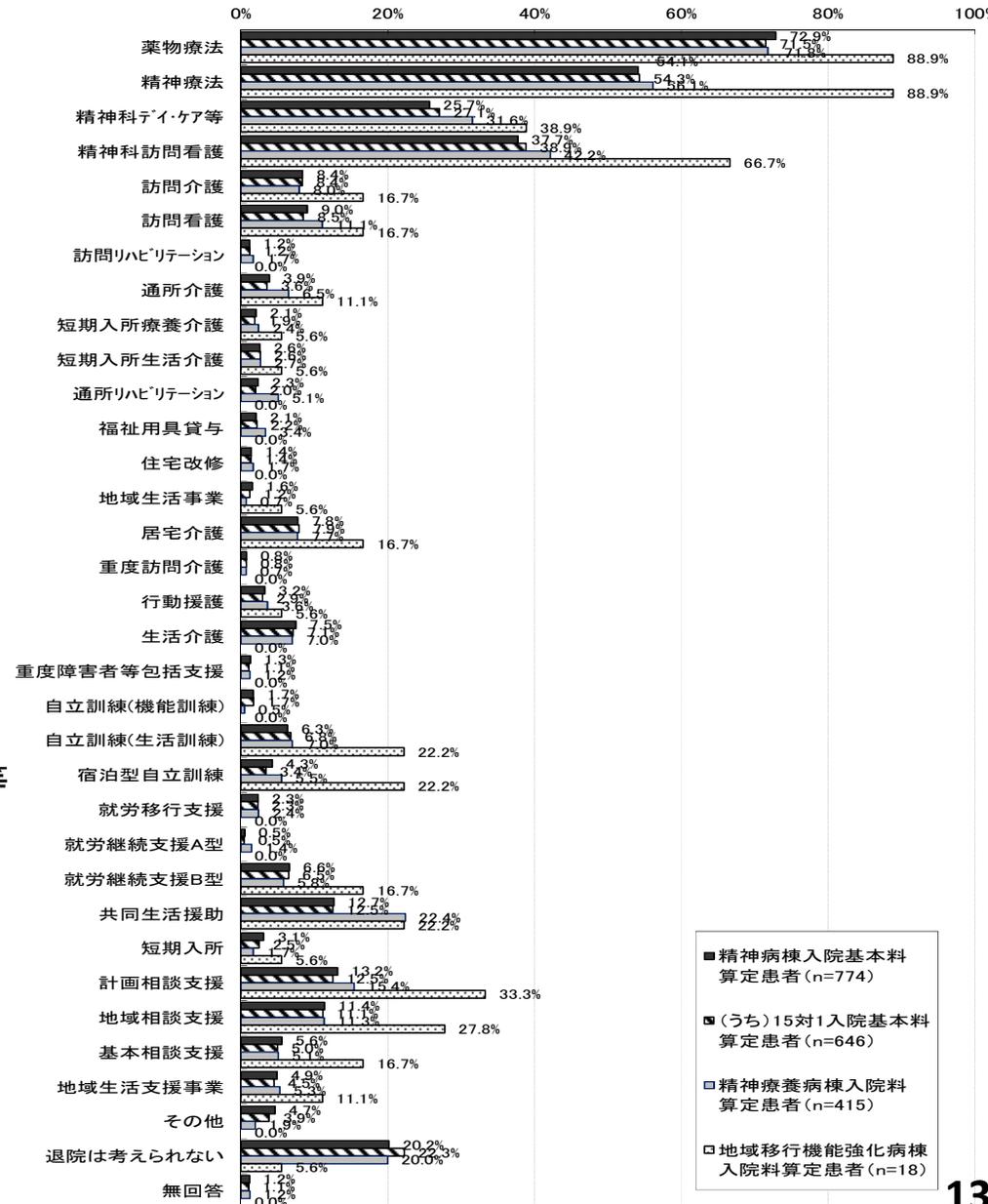
入院患者調査の結果⑦

＜退院後の生活継続に必要な支援等＞（報告書p112）

退院後に生活を継続するために必要な支援等をみると、いずれの入院患者でも「薬物療法」「精神療法」「精神科デイ・ケア等」、「精神科訪問看護」といった医療保険における内容が多かった。

この他についてみると、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「計画相談支援」(33.3%)、「地域相談支援」(27.8%)、「自立訓練(生活訓練)」、「宿泊型自立訓練」、「共同生活援助」(いずれも22.1%)等が2割以上あった。

図表 164 退院後に向けて生活を継続するために必要な支援等
(複数回答)

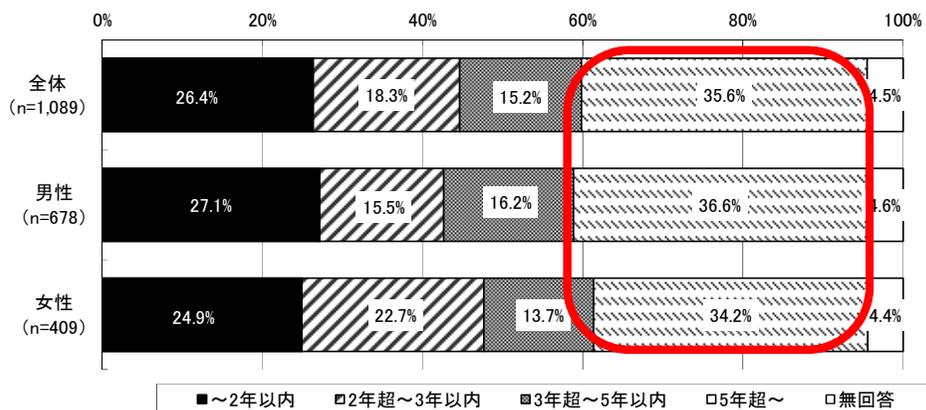


精神科デイ・ケア患者調査の結果①

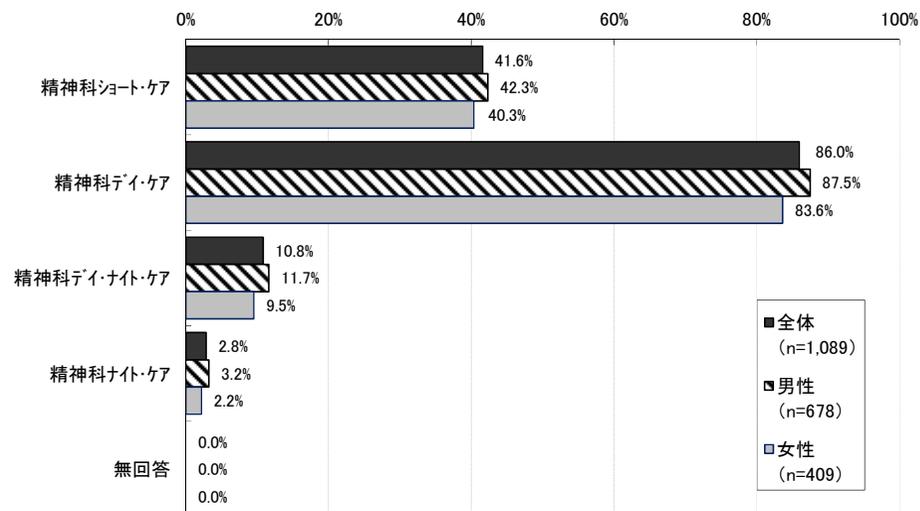
＜精神科デイ・ケア等の利用期間等＞（報告書p132,133）

精神科デイ・ケア等の利用期間をみると、「5年超～」が35.6%で最も多く、次いで「～2年以内」が26.4%であった。また、現在利用している精神科デイ・ケア等の種類をみると、「精神科デイ・ケア」が86.0%で最も多く、次いで「精神科ショート・ケア」（41.6%）であった。

図表 199 精神科デイ・ケア等の利用期間



図表 200 現在利用している精神科デイ・ケア等(複数回答)



図表 201 現在利用している精神科デイ・ケア等
(精神科デイ・ケア等利用期間別、複数回答)

(単位: 上段「人」、下段「%」)

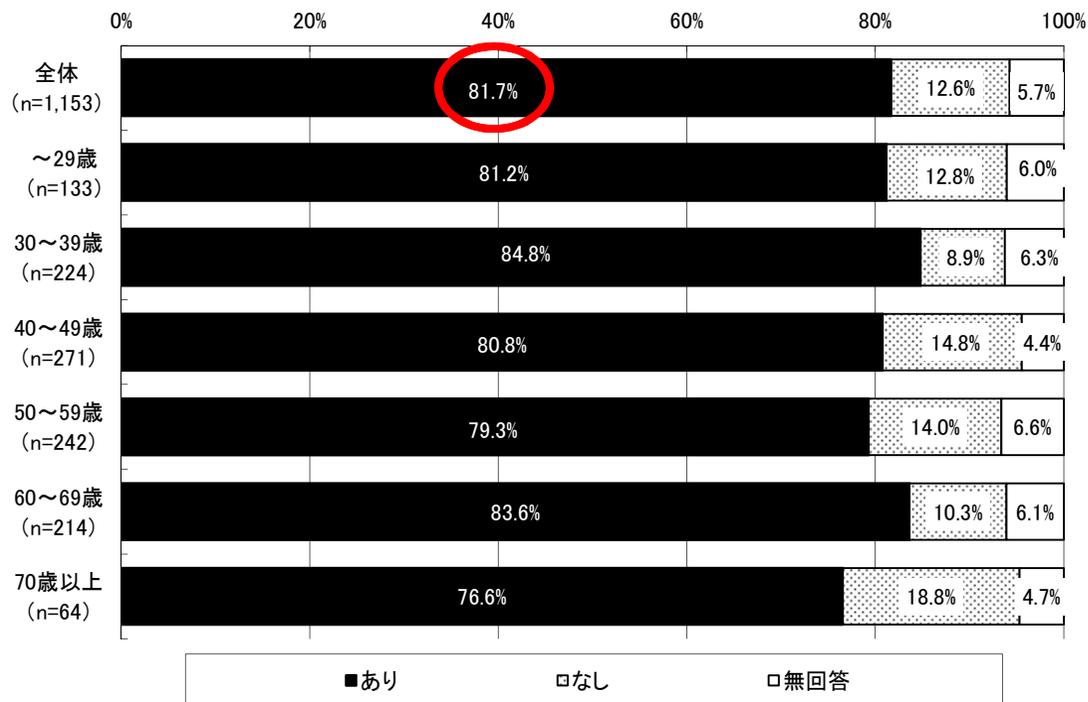
	総数	精神科ショート・ケア	精神科デイ・ケア	精神科デイ・ナイト・ケア	精神科ナイト・ケア	無回答
全体	1,089	453	936	118	31	0
～2年以内	287	135	237	26	6	0
2年超～3年以内	199	85	168	17	6	0
3年超～5年以内	166	69	149	13	6	0
5年超～	388	145	346	49	11	0
	100.0	41.6	86.0	10.8	2.8	0.0
	100.0	47.0	82.6	9.1	2.1	0.0
	100.0	42.7	84.4	8.5	3.0	0.0
	100.0	41.6	89.8	7.8	3.6	0.0
	100.0	37.4	89.2	12.6	2.8	0.0

精神科デイ・ケア患者調査の結果②

＜精神保健福祉士等による患者の意向確認①＞（報告書p137,138）

精神保健福祉士等による患者の意向確認を行われた患者は81.7%であった。年齢による違いはほとんどみられなかった。

図表 211 精神保健福祉士等による患者の意向確認の有無（年齢階級別）



（注）「全体」には年齢が不明の5人が含まれている。

図表 212 精神保健福祉士等による患者の意向確認の有無（精神科デイ・ケア等利用期間別）（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	あり	なし	無回答
全体	1,089	896	137	56
	100.0	82.3	12.6	5.1
～2年以内	287	241	29	17
	100.0	84.0	10.1	5.9
2年超～3年以内	199	156	34	9
	100.0	78.4	17.1	4.5
3年超～5年以内	166	135	23	8
	100.0	81.3	13.9	4.8
5年超～	388	323	47	18
	100.0	83.2	12.1	4.6

精神科デイ・ケア患者調査の結果③

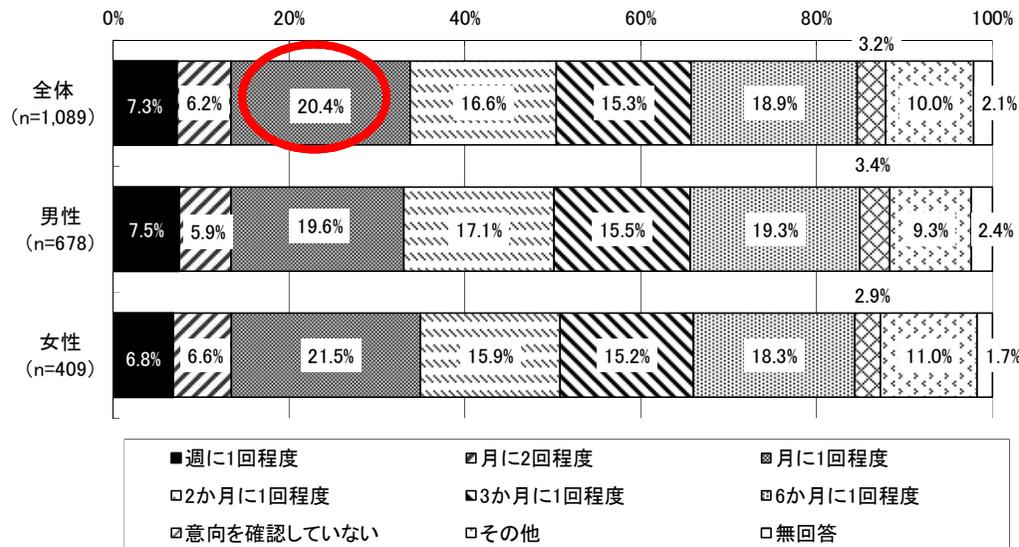
＜精神保健福祉士等による患者の意向確認②＞（報告書p138,139）

精神保健福祉士等による患者の意向確認の頻度は、「その他」を除くと「月に1回程度」が20.4%で最も多かった。一方、利用期間が「5年超」の患者では、「6か月に1回程度」が最も多かった。

図表 213 精神科デイ・ケア等に関する患者の意向確認の頻度

図表 215 精神科デイ・ケア等に関する患者の意向確認の頻度（精神科デイ・ケア等利用期間別）

（単位：上段「人」、下段「%」）



	総数	週に1回程度	月に2回程度	月に1回程度	2か月に1回程度	3か月に1回程度	6か月に1回程度	意向を確認していない	その他	無回答
全体	1,089	79	67	222	181	167	206	35	109	23
	100.0	7.3	6.2	20.4	16.6	15.3	18.9	3.2	10.0	2.1
～2年以内	287	20	23	61	42	40	54	8	33	6
	100.0	7.0	8.0	21.3	14.6	13.9	18.8	2.8	11.5	2.1
2年超～3年以内	199	17	12	46	29	30	34	7	17	7
	100.0	8.5	6.0	23.1	14.6	15.1	17.1	3.5	8.5	3.5
3年超～5年以内	166	10	18	32	26	26	29	7	14	4
	100.0	6.0	10.8	19.3	15.7	15.7	17.5	4.2	8.4	2.4
5年超～	388	27	11	70	75	65	87	11	36	6
	100.0	7.0	2.8	18.0	19.3	16.8	22.4	2.8	9.3	1.5

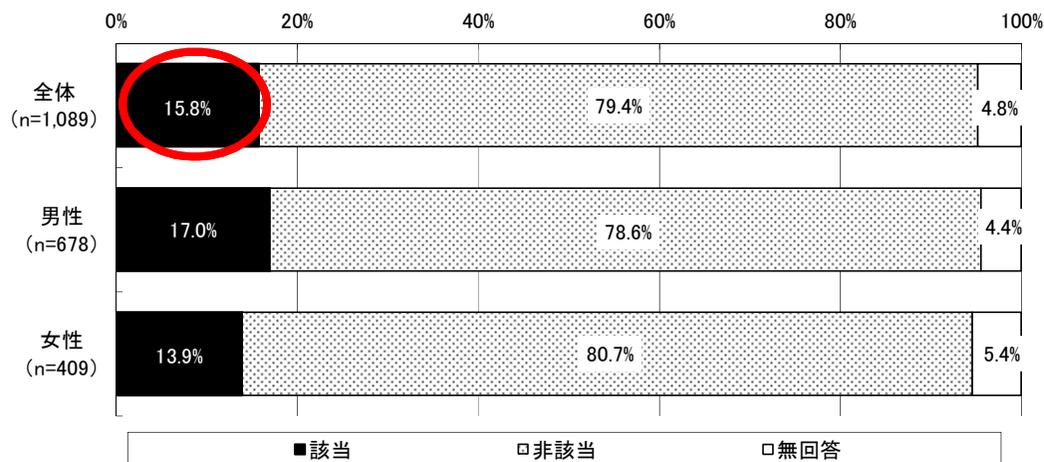
（注）図表中の「3か月に1回程度」「6か月に1回程度」の選択肢は設けていなかったが、「その他」の中で記載が多かったため、別途分類し集計を行った。

精神科デイ・ケア患者調査の結果④

＜長期かつ頻回に利用する患者に係る減算への該当の状況＞（報告書p140）

長期かつ頻回による100分の90の点数に該当している患者の割合は15.8%であった。利用期間が長期であるほど該当割合が高く、「3年超～5年以内」では23.5%、「5年超」では25.0%であった。

図表 216 長期かつ頻回による100分の90の点数該当の状況



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 217 長期かつ頻回による100分の90の点数該当の状況 (精神科デイ・ケア等利用期間別)

(単位: 上段「人」、下段「%」)

	総数	該当	非該当	無回答
全体	1,089	172	865	52
	100.0	15.8	79.4	4.8
～2年以内	287	19	249	19
	100.0	6.6	86.8	6.6
2年超～3年以内	199	9	176	14
	100.0	4.5	88.4	7.0
3年超～5年以内	166	39	121	6
	100.0	23.5	72.9	3.6
5年超～	388	97	284	7
	100.0	25.0	73.2	1.8

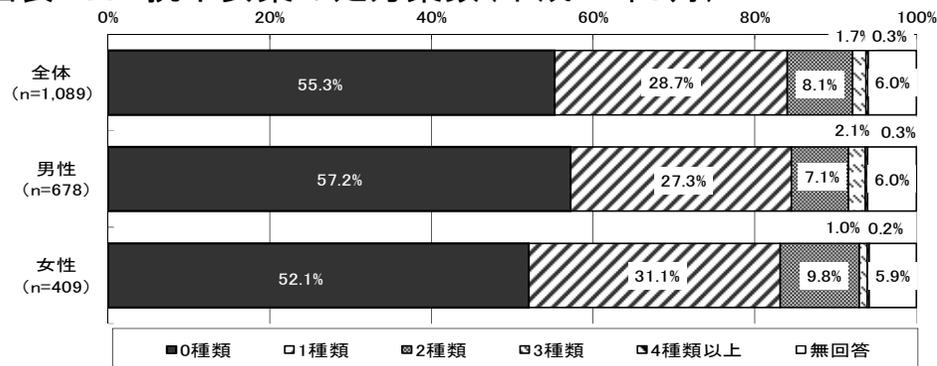
(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

精神科デイ・ケア患者調査の結果⑤

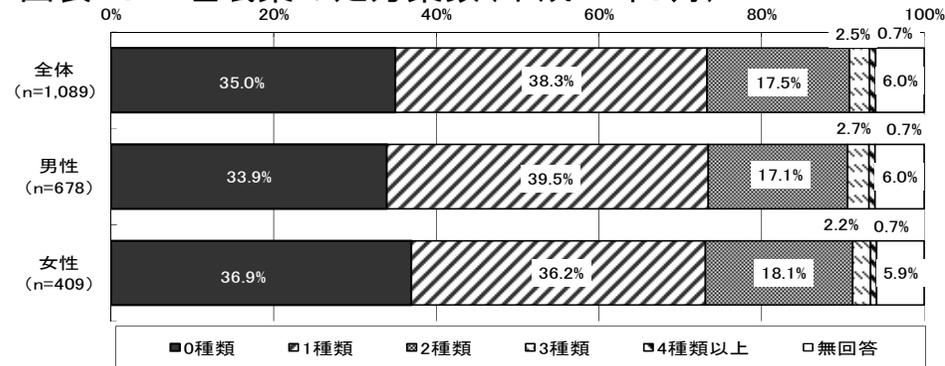
＜向精神薬の処方薬数の変化①＞（報告書p150,151,154）

デイ・ケアにおける平成27年9月の抗不安薬の処方薬数については、処方がない患者が最も多く、睡眠薬では「1種類」の処方が最も多かった。平成27年9月に1種類以上の抗不安薬及び睡眠薬が処方されていた患者の現在までの処方数の変化をみると、変化のない患者が最も多かったが、約1割の患者で処方数の減少がみられた。

図表 230 抗不安薬の処方薬数(平成27年9月)

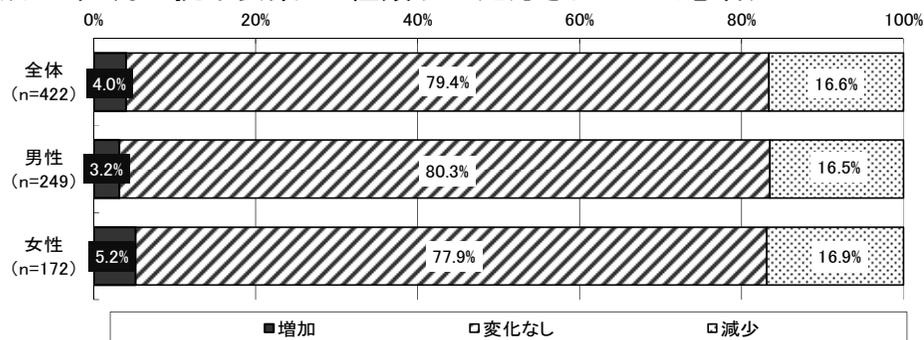


図表 232 睡眠薬の処方薬数(平成27年9月)



図表 238 抗不安薬の処方数の変化

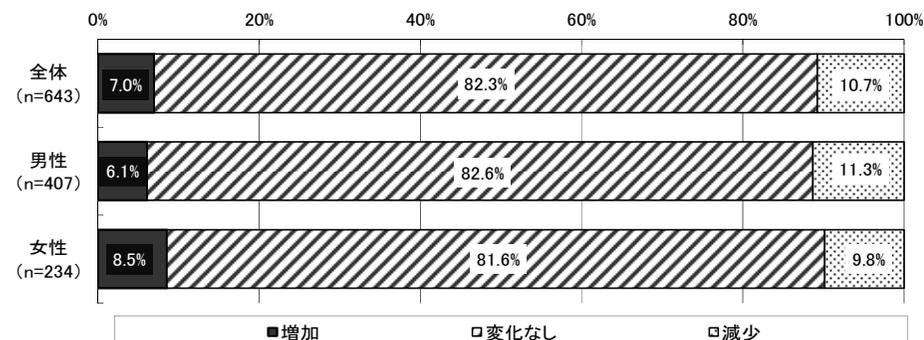
(平成27年9月と比較した平成28年9月の状況)
(平成27年9月に抗不安薬が1種類以上処方されていた患者)



(注)・「全体」には性別が不明の1人が含まれている。
・平成27年9月に抗不安薬の処方数が1品目以上であった患者を対象とした。
・処方薬数について、平成27年9月、平成28年9月、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

図表 239 睡眠薬の処方数の変化

(平成27年9月と比較した平成28年9月の状況)
(平成27年9月に睡眠薬が1種類以上処方されていた患者)



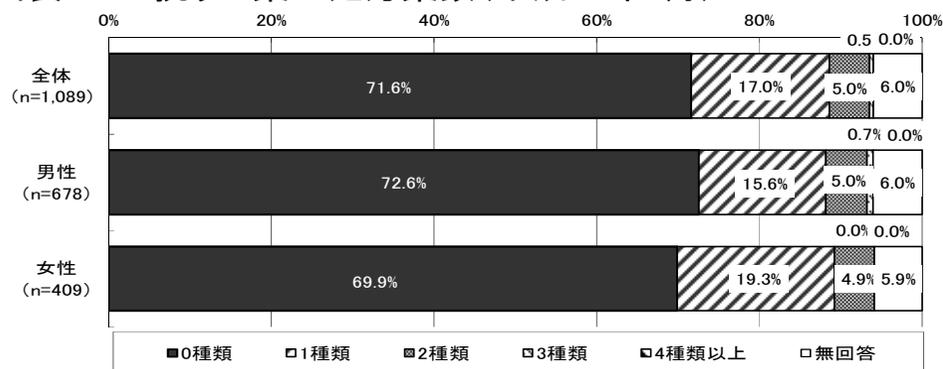
(注)・「全体」には性別が不明の1人が含まれている。
・平成27年9月に睡眠薬の処方数が1品目以上であった患者を対象とした。
・処方薬数について、平成27年9月、平成28年9月、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

精神科デイ・ケア患者調査の結果⑥

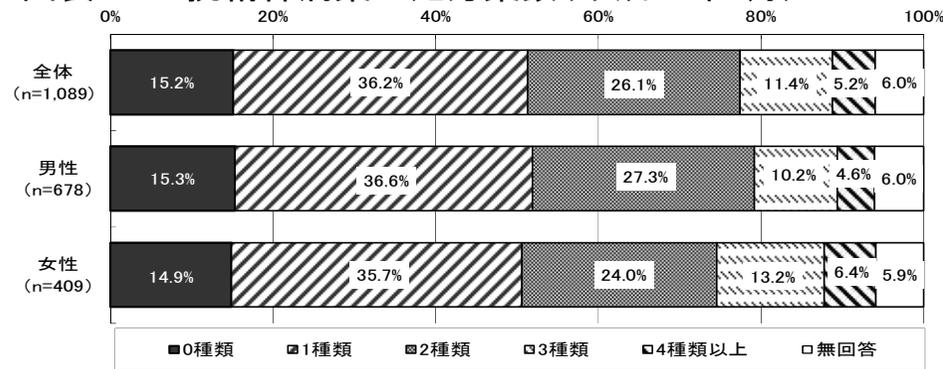
<向精神薬の処方薬数の変化②> (報告書p152,153,155)

デイ・ケアにおける平成27年9月の抗うつ薬の処方薬数については、処方がない患者が最も多く、抗精神病薬では「1種類」の処方が最も多かった。平成27年9月に1種類以上の抗うつ薬及び抗精神病薬が処方されていた患者の現在までの処方数の変化をみると、変化のない患者が最も多かったが、約1割の患者で処方数の減少がみられた。

図表 234 抗うつ薬の処方薬数(平成27年9月)



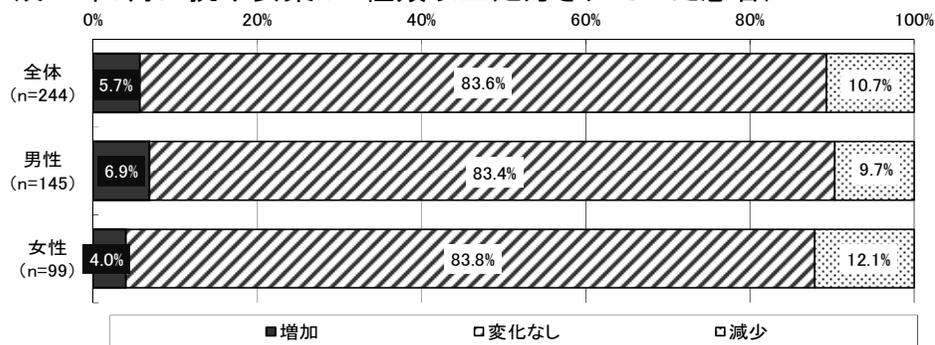
図表 236 抗精神病薬の処方薬数(平成27年9月)



図表 240 抗うつ薬の処方数の変化

(平成27年9月と比較した平成28年9月の状況)

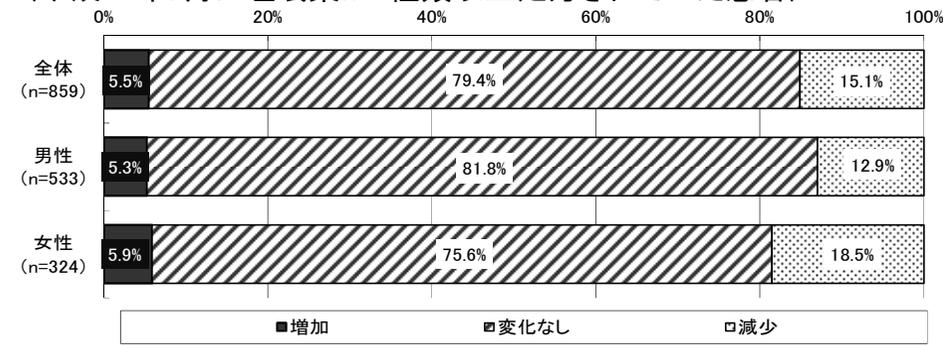
(平成27年9月に抗不安薬が1種類以上処方されていた患者)



図表 241 抗精神病薬の処方数の変化

(平成27年9月と比較した平成28年9月の状況)

(平成27年9月に睡眠薬が1種類以上処方されていた患者)



(注)・「全体」には性別が不明の1人が含まれている。

- ・平成27年9月に抗うつ薬の処方数が1品目以上であった患者を対象とした。
- ・処方薬数について、平成27年9月、平成28年9月、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

(注)・「全体」には性別が不明の1人が含まれている。

- ・平成27年9月に抗精神病薬の処方数が1品目以上であった患者を対象とした。
- ・処方薬数について、平成27年9月、平成28年9月、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。